

注意点1



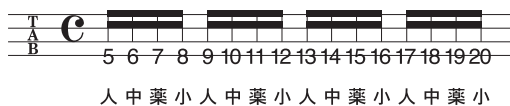
理論

**半音階の縦移動を覚えて
スムーズな運指を実現!**

クロマティック・スケールは、ベースの指板上では1フレット(半音)ずつ移動していく配列になる。梅フレーズは1本弦上でのクロマティック進行になるが、このように左手4本指を正確かつスピーディに横移動させ続けるのはなかなか難しい。したがって、クロマティックは縦のラインにするのが実践的だ(図1)。例えば、4弦5フレット(A音)から上昇するクロマティックは、4弦5フレット(人差指)→6フレット(中指)→7フレット(薬指)→8フレット(小指)と弾いたら、次は3弦4フレットに移り、この要領で2弦と1弦に移動していくとよい。このような縦の配列【註】もしっかり頭に入れることが大切だ。

図1 クロマティック・フレーズのポジション

・横の配列



・縦の配列



クロマティック系フレーズでは、横の配列と比べて、縦の配列の方が運指がスムーズになるため、より実践的と言える。

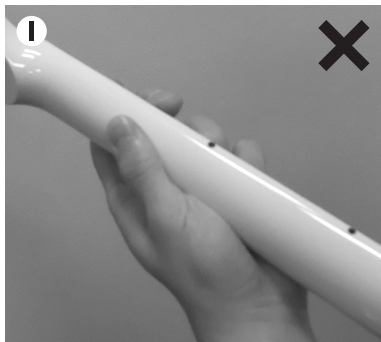
注意点2



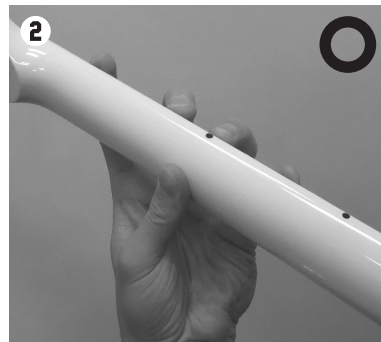
左手

**親指と支点の指で
ネックをしっかり持とう!**

メイン・フレーズ2小節目からは、左手2本指を1つのペアにしたフレージングになっている。人&中→人&薬→人&小→中&薬→中&小→薬&小という運指のため、左指の組み合わせを網羅しているのだ。特に難度が高いのは、3小節目3拍目以降の中指と薬指を支点にしたペアになる。通常のフレーズにはあまり登場しない運指になるため、弾き慣れるまでは押弦が安定しないと思う。この部分では、ネック裏の親指と支点の指でネックをしっかり挟み込むことが大切だ(写真①&②)。このエクササイズを通じて、普段眠っている指の筋力を呼び覚まそう!



① 親指がヘッド方向に向いていると、支点となる指とネックをしっかり挟み込むことができない。



② 親指を上向きにすることで、フォームは安定する。この時、余計な力が入らないように気をつけよう。

~コラム2~

将軍の戯れ言

弦を押さえる指は、人差指~小指までの4本のため(まれに親指で4弦を押さえることもあるが、あくまで例外)、この4本指を無駄なく動かせるように訓練することが大切になる。この4本指を均等に使いこなせない“貧乏運指”では、ノイズが出たり、音が途切れたりすることが多いので注意しよう。ギターに比べてフレットの間隔が広いベースは、より左手のパワーが必要になる。だからこそ、フィンガリングの無駄をなくす“エコ化”が必要で、それを実現させた結果、初めてスピードアップという特典を手に入れられるのだ。運指練習は決して侮ってはいかん!

**運指のエコ化で、“速さ”という特典をゲット!
フィンガリング練習の意義と効能**



運指練習に励んで、指の“エコ化”を図るべし。その先に“超絶”という名の栄光が待っているのだ!

【縦の配列】ベースやギターなどの弦楽器は、楽器の構造上、同じ音が複数のポジションに配置されている。その異弦同音を頭に入れておくと、フレージングの幅を広げることができるだろう。